

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和 2 年 12 月 22 日に令和 2 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和 3 年 1 月～6 月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での状況を予報します。

■ 海況

黒潮：大蛇行が継続し、一時的な流路の変動はあるものの、概ね A 型基調で推移する。房総沖では、概ね接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがある。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。伊豆諸島海域は「高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、
極めて高め：平年値+2.5℃程度
高め：平年値+1.5℃程度
低め：平年値-1.5℃程度

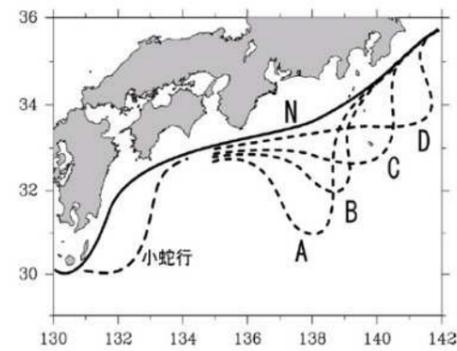


図 1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

来遊量：沖合域への来遊は前年並。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は増加傾向であり、産卵場である伊豆諸島海域への来遊は堅調です。卓越発生した 2018 年級群（3 歳魚）は、大幅な成長の遅れが指摘されており、三陸・常磐沖の索餌場から南下回遊しない可能性が懸念されていますが、それでもマサバ全体の来遊量としては前年並と予測されます。

ゴマサバ太平洋系群の資源量は減少傾向であり、前年の静岡県棒受け網船 CPUE（1 夜 1 隻当たりの漁獲量）の結果から、来遊量は低調であった前年並みと予測されます。

以上から、さば類全体の沖合域への来遊量は前年並みと予測しました。ただし相模湾・東京湾等沿岸域へのさば類の来遊量は海況の影響を受けて大きく変動するため、沖合域の来遊動向とは必ずしも一致せず、現時点での予測精度は高くありません（沖合域への来遊量が多くても、本県沿岸では獲れない年があります）。そのため、令和 3 年 6 月、8 月には海況のデータをもとに相模湾・東京湾へのマサバ来遊量を予測する「沿岸さば漁況予報」を公表する予定です。



■ マイワシ

来遊量：前年並～前年を下回る。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は増加傾向で、今期の漁獲主体になると考えている 2020 年級群（1 歳魚）は、2020 年夏以降、太平洋側各海域で小中羽サイズが好調に漁獲されていることから資源水準は高いと推定されますが、相模湾では近年 9 月以降、殆ど漁獲がなくなる傾向が続いています。

一方で、2019 年級群（2 歳魚）及び 2018 年級群（3 歳魚）は、これまでの漁獲状況から太平洋沿岸における残存資源はいずれも高い豊度であり、相模湾においても 2020 年 3 月から 4 月にかけてまとまった大羽イワシの来遊があったものの、その来遊は海況次第と言えます。

以上から、沖合から来遊しやすい海況条件（暖水波及等）となった場合は、春に 2～3 歳魚の一定の漁獲量も期待されることから「前年並み」、そうでない場合は「前年を下回る」と予測されます。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調な前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も、高水準期を支えた大型成魚（体長 12cm 以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2021 年 1 月～6 月は、前年同様資源量が少ないことから、5 月～7 月を盛漁期としながらも全般的には低調な漁模様となるでしょう。



■ マアジ

来遊量：前年を下回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997 年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も 2009 年以降減少傾向にあります。

例年、上半期に相模湾に来遊するマアジは 1 歳魚が主体となります。東シナ海由来の 1 歳魚の来遊はあまり期待できませんが、昨年の相模湾でのジンドガ漁獲量が前年・平年を下回っていることから、2021 年 1 月～6 月の漁獲量は相模湾周辺海域での発生群が漁獲の中心となり、前年を下回ると予測されます。

